

地域とともにある学校

魅力ある学校づくりを目指して

<校訓>

樹の如く伸びよ 星の如く輝け

<学校教育目標>

自律する人間 共創する人間 錬磨する人間

2018/9/25 (火) 発行

校長通信 NO20
北海道日高等学校
町田英謙

日勝支部生活体験発表大会を終えて

8月31日(金)に、日高町道の駅サン・ポッケ2階で平成30年度第62回生活体験発表大会日勝地区予選会がおこなわれました。

今年度は、日高地区が当番となり、日高教育局教育支援課長 湊様、日高町教育委員会教育長 武田様、日高高校教育振興会長 西尾様、日高報知新聞門別支局長 榊原様、4名の審査員のご臨席を賜り、帯広柏葉高校の関係者、地域住民の方々、本校の生徒・教職員が参加して盛大に開催されました。

この大会は、全国大会まで繋がる歴史と伝統があり、生徒が普段の生活で体験した内容を弁論形式で発表し、傾聴者に共感や夢を与えるものです。以前は、帯広地区でもう2校の参加がありましたが、閉校により現在は2校で実施している状況です。何とも寂しい限りです。

今回、各校での予選を突破した9名が参加しましたが、どの発表も素晴らしい内容でした。生徒達の今後の人生に役立てて貰いたいと思います。

結果は以下の通り

最優秀賞<全道大会出場>

日高高校 3年 金子 瑠那 君
「私の体験と目標」

優秀賞

帯広柏葉高校 2年 長崎 真智子 さん
「女子高生になりたいの」

優秀賞

日高高校 3年 鹿児島 匠 君
「人生最大の壁を経験して」

優秀賞

日高高校 2年 高橋 蒼 君
「日高での生活」

努力賞

帯広柏葉高校 2年 石澤 彩 さん
「今やるべきこと」

努力賞

帯広柏葉高校 1年 田村 麗央 君
「今までの自分とこれからの自分」

努力賞

日高高校 2年 菊池 万葉 さん
「為せば成る、為さねば成らぬ」

本校生徒も来年度は、帯広開催となります。2年連続して全道大会の切符を手にしたが、後輩の皆さん方の次年度の健闘を期待しております。

業務にあたっていただいた関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

全道校長会のご報告

9月5日(水)～6日(木)、校長会都市立部会(市町村立)が、洞爺湖町で開催されました。

別紙の報告書で詳細については掲載させていただきましたが、学習指導要領の改訂に伴い、各校が大きく舵取りをしている中、学校全体の取組が生徒達に大きな影響を与えることは言うまでもありません。

学校は、生徒達の未来を預かっている大変重要な学舎です。教職員全体の意識を高め、学習指導要領の改訂の趣旨を熟知し、高大接続改革、変化の激しい社会基盤に対応できる人格形成に向け精進に必要です。

今回の校長会では、国や道の先進的な取組や情報交換の場として大変有益なものでした。また、ご講演では、壮警町教育長(内閣府火山防災課長) 田鍋敏也様から「火山と共生する防災教育と危機管理」と言う演題で、有珠山噴火を関係機関との連携で、負傷者を1名も出さずに避難させた詳細について説明いただきました。

2日目には、私も「地域とともにある学校づくり」についてと言う内容で実践発表準備をしておりましたが、ご存じの通り、北海道胆振東部大地震で急遽、早朝に全員が集合し諸連絡と普通科部会の中止連絡を受け、それぞれの学校へ帰校しました。

体育大会を終えて

9月10日(月)、昼間勤務の時間帯で産学合同の体育大会を日高町総合体育館で実施しました。

近隣の地域では震災の影響で臨時休校している学校もある中でしたが、生徒達が企画した内容を実施して、精神的に不安な気持ちを少しでも払拭することをひとつのねらいとして実施しました。生徒全員が協力して素晴らしい行事となりました。

結果は、『3年生が総合優勝』、流石日高で鍛えた3年間の成果は大きいものでありました。

北海道胆振東部大地震

9月6日(木)午前3時に、胆振管内厚真町を震源に震度7の大地震が発生しました。この影響で厚真にある火力発電所が緊急停止し、北海道全域が停電(ブラックアウト)しました。文中にあるように、私は校長会(都市立部会)に出席中、ホテルも激しい揺れが長い時間続き、すぐに情報収集しましたが停電の影響で携帯電話の情報のみ、車に移動してテレビ報道を目のあたりにして、北海道では考えられない大地震が発生したことを知りました。

校長会も早めに解散となり、帰校している中、室蘭、登別、苫小牧を通り、震災の中心部であった安平町、厚真町、鶴川町、平取町を移動して日高に戻りました。

鶴川町では、コンビニが営業していたので立ち寄りしましたが、店内の商品が落ちて散乱、入り口のガラスが割れている状況でした。また、道路はそこら中にコーンがあり、亀裂や歩道の縁石が散乱されている状況でした。帰校後、一般車両が通行止めになった区間もあり、無事に到着できたことが奇跡に思えました。その後も余震の連続。

この度の震災でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り致しますと共に、心からお見舞い申し上げます。一刻も早い復旧を願うばかりです。

編集後記

10月6日(土)に開催される創立70周年記念式典・祝賀会まで1ヶ月を切りました。

当日は現在、約200名余りの参加が予定されており、最終準備に調整を図っているところです。関係者皆様からのご指得・ご協力に感謝申し上げます。